公益社団法人
日本語教育学会
Association for Japanese Language Education

文化庁

# 「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業
# ＜生活分野＞　成果（R4～5年度）

令和6年1月31日版

# 構　成

Ⅰ　「日本語教育の参照枠」と本事業の概要

Ⅱ　カリキュラム開発について

1. 成果概要と開発過程
2. 日本語の学習内容：ユニット例
3. カリキュラム例：「生活のための日本語コース：タイプ1」コース概要

Ⅲ　評価方法開発について

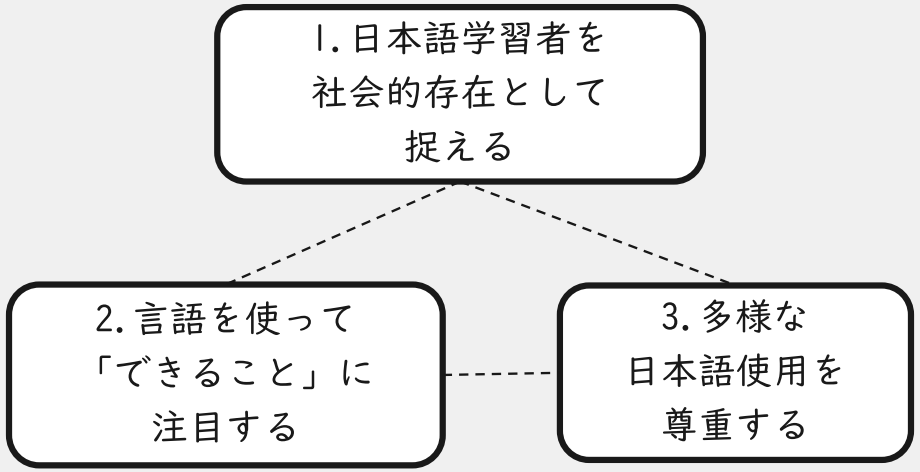
1. 成果概要と開発過程
2. ロールプレイ課題とルーブリックの例

Ⅳ　教師研修モデルについて

# Ⅰ 「日本語教育の参照枠」と本事業の概要

## 「日本語教育の参照枠」とは？

### ＜目指すもの＞




### ＜期待される効果＞

- 国や居住地、教育機関の移動後も適切な日本語教育を受けられる
- 分野別Can doにより具体的かつ効果的な教育・評価が可能に
- 様々な分野で共通の指標に基づく評価が可能になり、試験間の通用性が高まる
- 適切な日本語能力判定の在り方が示され、試験の質が向上

**日本語教育の質向上 ➡ 共生社会の実現**

# 「生活分野」カリキュラム開発の要素

## 「生活 Can do」

　誰もが持っている「生活」という側面に着目して、我が国において日常的な生活を営む全ての外国人（「生活者としての外国人」）が日本語で行うことを想定されるものを例示したもの

出典：第117回日本語教育小委員会資料3「生活Can do」の検証について

## 対象となる範囲

「生活上の行為の事例」の分類

I.　健康・安全に暮らす
II. 住居を確保・維持する
III.消費活動を行う
IV. 目的地に移動する
V.　子育て・教育を行う
VI. 働く
VII.人とかかわる
VIII.社会の一員となる
IX. 自身を豊かにうる
X.　情報を収集・発信する

# 3つの事業全体の目標

## 活動目標

① 共通の指標に基づく
教育カリキュラムの開発
② 教育実践活動のモデルの構築
③ 教育内容に応じた評価手法の開発
④ 公開授業・教師研修の開発
⑤ 分野別日本語教育の連携モデルの開発

## 成果目標

①による教育カリキュラムの質向上
②による授業改善
③による評価手法の改善
④による教育の質向上
⑤による分野別日本語教育の連携

## 国民・社会への影響

- 国内外・分野別日本語教育機関の間の教育の連関による日本語教育の推進
- 日本のコミュニケーション基盤としての日本語教育の質向上
- 共生社会の実現に寄与

**本事業は「生活分野」について①③④に取り組む**

# 「参照枠」活用コース
# カリキュラム・シラバス開発

**【生活分野　必須参照資料（文化庁資料）】**

- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について
- 文化審議会国語分科会（第80回）（令和4年3月8日）

  資料3-4　地域における日本語教育の在り方について（審議経過報告）pp.32-64 「生活Can do一覧(令和元-2年作成)」【A1-B2】レベル

☆「生活Can do」一覧の公開（令和5年5月、文化庁）後、最新版Can doを利用

# 教師研修モデル開発及び実施

以下を含めた教師研修モデル開発及び実施

1. 参照枠の理解
2. レベル判定研修
3. Can doベースのカリキュラム作成研修

応募要項上は任意の取組

# 評価方法の開発

テスト、自己評価チェックリスト、パフォーマンスタスク、ルーブリック等の開発

# Ⅱ　カリキュラム開発について

1.　成果概要と開発過程

＊成果概要

(1)「生活Can do」をユニット化（Can doの塊化）
　・想定時間数、社会・文化・生活に関する知識、文字学習等の情報付加
　・場面に合わせ、Can doの表現を調整

(2)生活日本語コース案2種（タイプ１とタイプ2という異なるタイプの学習者像を想定）
　・日本語教育／学習の目的、学習者像、目標、方針、教授法・教室活動、
　　教材・リソース、評価、時間・期間、内容構成、日本語授業の内容等から成る
　・「生活Can do」ユニットから、日本語授業の内容を構成

＊開発過程

令和４年度：「生活Can do（仮）」を大分類毎にユニット化し、必要情報を付与
　　タイプ１のコース案の作成
令和５年度：　「生活Can do（公開版）」への対応。ユニットの見直し
　　タイプ２のコース案の作成
　　教材例・教室活動例の作成

# 日本語の学習内容：ユニット例

○「生活Can do」を生活上の行為の大分類毎に整理し、場面ごとの一連の言語行動として「Can do」をユニット化した。例）Ⅲ（消費活動）：ユニット11「クリーニング店を利用する」

| 番号 | 集計レベル | 主観レベル | ユニット名 | ユニットの活動 | 単位時間数 | Can do毎の単位時間 | Can do番号 | 生活Can do(記述) | 5つの言語活動 | レベル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | A2 | A1 | クリーニング店を利用する | クリーニング店でクリーニングを頼む | 2 | 0.5 | 141 | クリーニング店にある看板や表示を見て、服の種類や料金など、ごく基本的な情報を探し出すことができる | 読む | A1 |
| | | | | | | 1 | 142 | 美容院やクリーニング店などで、会員証の申込書に名前、住所など、自分の基本的な情報を書くことができる。 | 書く | A1 |
| | | | | | | 0.5 | 143 | クリーニング店に服を出すとき、実物や料金を示しながら話されれば、「染み抜きをしますか」「デラックスにしますか」などの特別な洗い方に関する店員の簡単な質問に答えることができる。 | 話す（やりとり） | A2 |

# カリキュラム例:「生活日本語コース:タイプ1」コース概要

| **＜生活日本語コース・タイプ1：家族滞在（配偶者）向け＞（A1・A2コース、B1コース）　20240125版** |
|---|
| 日本語教育／学習の目的 |
| 外国人（日本語を母語としない人）が、日本において安心・安全で、十全な社会生活を送れるようになることを目的に、基礎的な日本語を身に付ける。 |
| 学習者像 |
| 入国間もない配偶者、非漢字圏、定住化の可能性有。日本語未習。身近な知り合いを作り、地域での日常生活を充実させたい。 |
| 目標 |
| １．〔日本語能力〕日本の地域社会で生活する人の多くが遭遇する場面において、周囲の力も借りながら、日本語で行動できるようになる。基礎コースが終わった段階で、参照枠のA2レベル（全体的な尺度）に達すること。自立コースが終わった段階で、参照枠のB1レベル（全体的な尺度）に達すること。<br>＜A2＞ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。<br>＜B1＞仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテクストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。<br>２．〔学習能力〕自身の日本語学習や日本語使用について客観的に捉え、日本語や日本文化について分析的に捉えることや、日本語学習を自分に合った方法で管理することができるようになる。<br>３．〔社会文化に関する知識・意識〕日本語学習を通じて、生活場面で日本語を使用するにあたって必要となる知識を獲得し、社会・文化・生活における異なりに対する意識が高まる。 |

| 方針 |
| --- |
| 1. できることが増えること、コミュニケーションすることによって自身の社会が拡がっていくことが実感できるような教室を作る。<br>2. 自身の日本語学習や日本語能力を意識し、主体的に日本語学習に取り組める姿勢を育てる。 |
| 具体的な工夫・留意点 |
| ・「～できる」及び「行動」を中心に捉え、言語能力や方略的能力、正書・読字に関わる能力は行動を支えるものとして扱う。<br>・自律的な学習姿勢を身に付けることができるよう、初期段階から学習者が自身の学習を意識・管理するための「学習ポートフォリオ」を活用する。ポートフォリオには、日本語学習の目標・見通し、教室外の行動目標、自己評価、振り返り、社会的活動の記録、等が含まれる。<br>・日本語や日本文化の知識を「教えられる」のではなく、自ら分析・発見・比較したりする姿勢が身に付くような指導方法・活動・評価方法を取り入れる。<br>・対面での4時間を充実させるため、伝統的な予復習は求めない。教室での学びと実生活での日本語使用が循環するような授業設計をし、生活の中での使用や発見が予復習として機能することをねらう。 |
| 教授法・具体的な教室活動・人の配置、等 |
| 〇コミュニケーション重視の教授法・活動<br>〇教室内のやりとりのコミュニケーション化<br>〇教室外日本語使用の促進<br>〇日本語教師／指導者が担当し、内容によって各種専門家や一般市民が役割を担う |

| 教材・リソース |
| --- |
| ・自主作成教材（含．日本語学習ポートフォリオ）<br>・『教材例集』、地域日本語教育実践プログラム等により開発された各地の教材<br>・『つながるひろがるにほんごでのくらし』、『いろどり』、『ひきだすにほんご』<br>・『にほんごチェック！』<br>・『Life in Tokyo: Your guide』、『生活・仕事ガイドブック』 |
| 評価 |
| 1.日本語能力の評価・確認（開始時、終了時）<br>2.定期的な観察・評価<br>3.〔日本語学習ポートフォリオ〕Can doを用いた、学習者による自己評価、相互評価<br>4.〔日本語学習ポートフォリオ〕教室外日本語使用の記録（活動記録）・資料<br>5.コース評価（学習者・教師による） |

# Ⅲ　評価方法開発について

1.　成果概要と開発過程

＊成果概要

- 「やりとり」「発表」の評価のためのロールプレイ課題（サンプル）
- 「やりとり」「発表」の評価のためのルーブリック（サンプル）
- 「書くこと」の評価のための課題（サンプル）
- 「書くこと」の評価のためのルーブリック（サンプル）
- 「読むこと」「聞くこと」の評価のための課題（サンプル）
- 評価基準に能力Can-doを取り入れるための方法

＊開発過程

令和４年度：「やりとり」各種ロールプレイ・ルーブリック等の検討
令和５年度：「発表」「書くこと」「読むこと」「聞くこと」等の課題の検討
評価基準に能力Can-doを取り入れるための方法の検討

## 2. ロールプレイ課題とルーブリックの例　ーロールプレイ課題例ー

| | |
|---|---|
| 生活Can do | 電話で病院や歯医者の予約をするとき、ゆっくりとはっきりと話されれば、名前や電話番号、日時、診察理由など病院のスタッフの質問に答えることができる。<br>（やりとり_製品やサービスを得るための取引_A2_467） |
| ロールA | あなたは歯が痛いです。歯医者に電話をして予約をしてください。 |
| ロールB | あなたは歯医者のスタッフです。外国人の患者の予約をしてください。以下のことについて聞いてください。<br>・名前　・電話番号　・予約の日時　・症状 |
| タスク達成のための手がかり | ・名前をはっきりと相手に伝えられるか。　・電話番号をきちんと伝えられる。<br>・希望の予約の日と時間を伝える。<br>・どのような症状かを簡単なことばで説明できる。 |

## 2. ロールプレイ課題とルーブリックの例　ー分析的ルーブリック例ー

課題：あなたは体調不良のため，病院に行って，診察を受けます。あなたは体調不良のため，病院に行って，診察を受けます。最初に，医師からの質問に答えてください。そして，過去の病気や症状について説明してください。（BI）

| | できた | なんとかできた | できなかった | アドバイス |
|---|---|---|---|---|
| **課題遂行** | 症状や過去の病気などに関する質問に対して答え，詳しく説明することができました。 | 症状や過去の病気などに関する質問に対して，助けてもらいながら答えたり，説明することができました。 | 症状や過去の病気などに関する質問に対して答えたり，説明することができませんでした。 | よかった点，具体的なアドバイスを記述<br><br>ストラテジーについてできたことを評価する |
| **語彙・表現** | 症状や過去の病気について，述べたいことを述べられました。複雑なことに関しては誤ることがありましたが，初歩的な語彙は使いこなせました。 | 症状や過去の病気について，述べたいことを述べられる時と述べられない時がありました。初歩的な語彙を十分には使いこなせないことがありました。 | 症状や過去の病気について，述べたいことを述べられませんでした。初歩的な語彙が使いこなせませんでした。 | |
| **文法** | よく使われる文型を割合正確に使えました。高いレベルの文法を使う能力もあります。誤りもありますが，何を言おうとしているかわかります。 | よく使われる文型を正確に使うことが難しいです。母語の影響や誤りがあります。何を言おうとしているかわかる時とわからない時がありました。 | よく使われる文型を正確に使うことができませんでした。母語の影響や誤りがあります。何を言おうとしているかわかりにくかったです。 | |
| **音声** | わかりやすかったです。 | 時々聞き直したりすることがありました。 | わかりにくかったです。 | |

# Ⅳ　教師研修モデルについて

＊研修の目的　　「日本語教育の参照枠」を活用し、「生活Can do」に基づいて「生活日本語」に関するシラバス・カリキュラム設計を行うことができる人材を育成することを目的とする。

＊研修の実施　　令和４年度　静岡県浜松市にてモニター研修実施
令和５年度　①兵庫県神戸市にて実施
②学習院大学（東京・豊島区）にて実施

＊時間数　　１５コマ（単位時間４５分）　１日５コマ３日間
※モニター研修は１２コマで実施。

＊研修の形態　　対面での実施／定員２０名（モニター研修は定員１２名）
※受講後は、各参加者がそれぞれの地域・機関で実施すること、またネットワーク作りをめざしたことから対面とする。

＊研修の内容

| | 時間数 | | テーマ |
|---|---|---|---|
| Ⅰ | 3 | 参照枠の理解 | 「参照枠」を理解し、教育現場に活かす意義を学ぶ |
| Ⅱ | 6 | カリキュラム開発 | 「生活Can do」を活用し、ニーズに合わせたカリキュラム開発の方法を学ぶ |
| Ⅲ | 4 | 評価 | さまざまな評価方法を理解し、適切な評価活動を考える |
| Ⅳ | 2 | まとめ | 研修のまとめ：現場での共有に向けて |

＊研修の特徴

・すべての講義において、グループ討議やグループワークを実施し、仲間とともに学び合うことを重視する。
・参加者が常に「現場にどう生かすか」という視点を意識することを重視する。
・自律的な学びを重視し、「自己評価表」を有効に活用する。